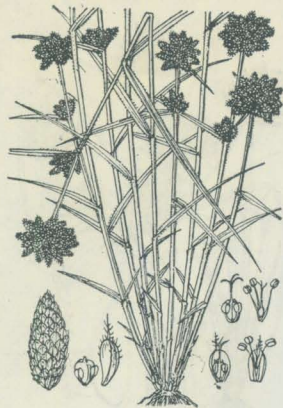


第 3821 図

かやつりぐさ科



くろたまがやつり

*Fuirena ciliaris* Roxb.  
(= *F. glomerata* Lam.)

本州中部以南、アジア東南部に生ずる1年生草本。茎は簇生し高さ10-40cm、やや3稜形をなし、上部は葉と共に立った毛が密生している。葉は長さ3-15cm巾3-7mm、茎下部のものは短い。秋、茎頂に普通1-2の短い枝を分ち、3-10余個の小穂が密にかたまつてつく。小穂は長卵形で暗緑色をおび、長さ4-8mm巾約3mm、多くの花からなる。穎は卵形で長さ約1.5mm、毛が散生し、先に長さ1mm許の毛のある芒があり、背部は緑色で上部縁辺は黒っぽい。雄蕊は3本、花柱は3裂。瘦果は倒卵形で凸頭、長さ約1mm、鋭い3稜があり、基に6本の子房下鬚があり、外側の3本は刺状で短く、他の3本は果体とやや同じ長さがあり、先に4角な弁状片をつける。

第 3822 図

あんぺら

*Lepironia mucronata* Rich.

アジア南方、濠洲などの湿地に広く分布する多年生草本で、その茎を打って、蓆を織るために南支などで広く栽培する。地下茎は泥中を横走し、赤褐色硬質の鱗片葉を被り、その上に強剛な茎が列生直立する。葉は退化して鱗片状となり、赤褐色を呈し、茎の下部を包む。茎は円柱形、無葉で夏日茎の頂部に近い所から側方に長楕円形褐色長さ1-1.2cmの小穂1個を生じ、卵形鈍頭の鱗片は螺旋状に配列し、雌花を頂部に雄花を側部につける。雌花には長く2岐する花柱があり、雄花には雄蕊2-3個あり、花時に鱗片外に超出する。和名アンぺラは元マレー辺の言語に由来すると言う。この茎にて製した粗な蓆もこの名で呼ぶ。

かやつりぐさ科



第 3823 図

きだちのねずみがや

*Muhlenbergia ramosa* Makino  
(= *M. japonica* Steud.  
var. *ramosa* Hack.)

本州中部以西、九州の山林中に生ずる多年生草本で、横臥した匍枝は長さ10cm許に達し、圧着した硬い鱗片で覆われ、その節から新茎を横出する。稈は直立し、高さ40-100cmに達し、上方で繁く斜上分枝する。葉は線状披針形、薄質、深緑色、長さ8-15cm、巾2-5mm内外。秋に稈頂に瘦長な円錐花序を直立して生じ、その長さ10-15cm許、1-2回分枝して、稍密に帯紫色の小穂をつける。小穂は長さ2.5-3mm、披針形をなし、1花を具え、花下に関節がある。内外の2穎は膜質、広披針形、鋭頭で、1脈を具え、外稃の長さの3分の2許あり、外稃は先端に2個の微齒があり、その間に長さ5-8mmの長芒を有する。

ほもの科



たちねずみがや

*Muhlenbergia hakonensis* Makino

関東以西の本州、四国、九州の山地、林際等に生ずる多年生草本で、地上に匍枝を引いて繁殖する。匍枝は前種に比し、稍細く、径2mm許、背面に竜骨があって膨出する鱗片で覆われる。稈は直立して高さ60-100cmに達し、分枝せず、或は上方で僅かに分枝し、葉は線状披針形、薄質、深緑色で長さ10-20cm、巾2-4mm許あり、秋日、稈の頂に直立して帯紫色線形の円錐花序を出し、その長さ10-15cm、花序の分枝は圧着する。小穂に1花あり、花下に関節あり、長さ4-4.5mm、内外の2穎は狭披針形、鋭尖頭、膜質、外稃の長さの2/3乃至3/4許あり、外稃は先端僅に2岐し、その間に6-10mm許の長芒を直立す。

第 3824 図

ほもの科



第 3825 図

しらげがや

*Holcus lanatus* L.

欧洲原産の多年生草本で、広く北米其の他に帰化し、本邦にも時にこれを見る。叢生し、全体に白色軟毛あり、稈は膝曲する基部から斜上して高さ20-100cmに達し、葉は灰白緑色又は緑色、葉鞘に逆毛あり、葉は線形、先端尖り、長さ10-30cm、巾5-10mm、円錐花序は晩春から夏に出で、長楕円形又は卵形、白緑色、時に帯紫色、長さ10-20cm。小穂は長楕円形、扁平、長さ4-6mm、2花あり、通常上花は雄性、下花は両性、小穂下に関節がある。内外穎は膜質、楕円形で略同形、小穂を覆い、脈上に剛毛、全面に短毛があり、外穎は1脈、内穎は3脈、甚だ短かい芒がある。外稃は2.5mm許、光沢があり、上方竜骨あり、不明の3-5脈を具え、雄性花では背面より芒を生じ、芒は乾けば外方に鈎状に反曲する。

ほもの科



第 3826 図

むぎくさ

*Hordeum murinum* L.

欧洲及び南西アジア原産の1-2年生草本で、邦内の処々に帰化している。荒地、路傍などを好み叢生し、稈は高さ10-60cm、平滑無毛、葉は浅緑色、線状披針形、円底、左右に細長な小耳があり、長さ10-20cm、巾4-8mm許、両面は疎に有毛か或は無毛であるが、葉鞘には下部を除いて毛がない。晩春から夏にかけて短柄の先に、長芒に覆われた穂状花序を直立して生じ、長さ3-12cm、緑色又は帯紫色、小穂は3個ずつ集って一団となり、その下に関節あり、中軸に密に2列生をなすが、中央小穂のみ無柄で稔性、内外穎は剛毛状。長さ約2.5cm、縁辺の中央以下に長毛が散生する。外稃は披針形、穎より長く、先端に甚だ長い芒を有する。

ほもの科

